

# 写真展 懐かしき東北・美しき東北

## 奥会津文化施設連携展

主催：只見川電源流域振興協議会

共催：柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町・檜枝岐村

特別協力：福島県立博物館

後援：福島民報社・福島民友新聞社・株式会社ラジオ福島・株式会社エフエム福島  
株式会社エフエム会津・福島テレビ株式会社・福島中央テレビ・福島放送  
株式会社テレビユー福島・NHK福島放送局・河北新報社



千葉禎介 《雀追い》 大雄村狐塚

会期 / 2022年7月22日(金)～10月10日(月・祝)

会場 / 東北電力奥会津水力館「みお里」/ 金山町

交流・観光拠点施設 喰丸小 / 昭和村

ただみ・モノとくらしのミュージアム / 只見町

奥会津博物館 / 南会津町 \*奥会津博物館のみ8月31日(水)まで開催。

尾瀬写真美術館 / 檜枝岐村

5  
同  
時  
開  
催  
で  
す

東日本大震災の大きな被害を受けた東北。その被害だけではなく、本来の東北の魅力をさまざまな手法、視点、年代の写真家による優れた写真作品で広く世界に紹介する展覧会が国際交流基金によって行われました。2012年春から始まった世界各地での巡回展は、2014年の福島県立博物館、遠野市立博物館での一時里帰り展を挟んで43カ国74会場を巡回、2020年に終了し、2021年国際交流基金のご厚意により10作家123点の作品が福島県立博物館に寄贈されました。これらの作品は多面的な東北をテーマにしているとともに、日本を代表する写真作品の優れたコレクションでもあります。

今回の展覧会は、奥会津地域の文化施設が連携しこの優れたコレクションを多くの方々にご紹介するものです。世界に発信された東北の魅力を伝える写真作品と各開催施設の展示をあわせてご覧いただき、さらに各施設を巡ることで奥会津の歴史・文化への関心を深めていただければ幸いです。

### ■関連イベント

#### 記念講演会①「東北と写真・地域と写真」

日時：8月6日(土)13:30～15:30

会場：尾瀬写真美術館(檜枝岐村)

〒967-0500 南会津郡檜枝岐村字左通124-6 TEL/0241-75-2065

講師：飯沢耕太郎(写真評論家)

赤坂憲雄(学習院大学教授)

定員：20名(申込不要・先着順)

#### 記念講演会②「写真と民俗学」

日時：10月8日(土)13:30～15:30

会場：ただみ・モノとくらしのミュージアム(只見町)

〒968-0602 南会津郡只見町大字大倉字窪田30 TEL/0241-86-2175

講師：久野俊彦(ただみ・モノとくらしのミュージアム館長)

赤坂憲雄(学習院大学教授)

定員：20名(申込不要・先着順)



### ●スタンプラリーのご案内

「写真展 なつかしき東北・美しき東北」開催の5会場すべてを観光くださった方に、抽選(※数量限定)で奥会津ならではのプレゼントをお贈りします。5番目に訪れた会場にて押印済みの本パンフレットをご提示いただき、所定の申込書に必要事項を記載の上、お申込ください。(※奥会津博物館は、会期終了後も10/10までスタンプラリーは継続して行います。)

東北電力奥会津水力館「みお里」 / 金山町	交流・観光拠点施設 喰丸小 / 昭和村	ただみ・モノとくらしのミュージアム / 只見町	奥会津博物館 / 南会津町	尾瀬写真美術館 / 檜枝岐村

お問合せ先：只見川電源流域振興協議会事務局  
〒968-0006 大沼郡金山町大字中川字上居平933(東北電力奥会津水力館 みお里内)  
TEL/0241-42-7125、FAX/0241-42-7127  
Email/tdrsk@okuaizu.net  
https://okuaizu.net

※このパンフレットは、電源立地地域対策交付金により作成されています。



田附勝 【鹿撃たれる】岩手県釜石市 2009年11月

## 田附勝 Masaru Tatsuki

### <田附勝プロフィール>

1974年富山県生まれ。1995年よりフリーランス。1998年～2007年にかけて派手なイルミネーションとペイントでデコレーションしたデコトラの撮影を続け、2007年に『DECOTORA』(リトルモア)刊行。岩手県出身のデコトラドライバーから鹿狩りをする人を紹介してもらったことをきっかけに東北に通い始め、東北の風土、自然、生活、人と深く交わりマタギ、漁業関係者などの撮影を続け東北のエネルギーを表現している。祭礼、民間信仰にも関心は広がり、2011年の東日本大震災後に写真集『東北』(リトルモア)として結実、2012年第37回木村伊兵衛賞を受賞。主な写真集に、『その血はまだ赤いのか』(Slant、2012年)『KURAGARI』(SUPER BOOKS、2013年)『「おわり。」』(SUPER BOOKS、2014年)『魚人』(T&M projects、2015年)など。2012年からは各地の発掘現場、博物館収蔵庫で縄文土器のかけらを梱包材として使われていた新聞紙などと一緒に撮影、時の集積を見つめる制作に取り組んでいる。2020年には写真集『KAKERA』(T&M projects)を刊行。

### 尾瀬写真美術館(檜枝岐村)

国内外の山岳写真、自然風景を撮り続け、海外でも評価されている写真家・白旗史朗氏が尾瀬で撮影した写真を常設展示。1階吹き抜けの三条ノ滝大瀑布を撮影した高さ9m、幅15mの作品は圧倒的迫力。2階には白旗氏が尾瀬の四季を捉えた作品などを展示しています。その他、尾瀬の写真や絵などの企画展も開催。尾瀬の魅力を堪能できる美術館です。



- 開館時間 / 9:00～17:00
- 休館日 / 毎週水曜日(7/22～8/22は無休)
- 入館料 / 無料
- 駐車場 / 普通車30台
- 住所 / 〒967-0500 南会津郡檜枝岐村字左通124-6
- TEL / 0241-75-2065





小島一郎 《ままごと》 津軽地方

# 小島一郎

Ichiro Kojima

## <小島一郎プロフィール>

1924年、青森市で玩具と写真材料を扱う商店に生まれる。青森県立商業学校(現・青森県立青森商業高等学校)を卒業後、第二次世界大戦に応召。戦後の混乱期を経て、1954年頃から本格的に写真を始める。津軽の農家の庭先や寒風吹きすさぶ一本道といった地域特有の風景を題材としつつ、日常を超えたイメージを生み出す突出した造形感覚と確かな技巧は、日本の報道写真の先駆者・名取洋之助に見出され、1958年に東京で初個展開催。1961年プロのカメラマンを目指し上京。同年に発表した『下北の荒海』でカメラ芸術新人賞。1963年、撮影のために北海道を訪れるが、過酷な撮影のために体調を崩す。同年、生前唯一の写真集『津軽(詩・文・写真集)』(新潮社)を刊行。翌1964年に39歳の若さで急逝した。青森の厳しい自然とともに生きる人々への深い共感を、覆い焼きや複写の技法を駆使しながら、印画紙に力強く焼きつけた写真の数々は、その早すぎる死の後、数々の展覧会等に取り上げられ、再評価の波は絶えることがない。

## 東北電力奥会津水力館 みお里 (金山町)

奥会津の只見川水系に位置する地域は大規模な電源開発が行われ、日本の戦後の復興期を電力供給で支えました。「東北電力奥会津水力館みお里」は、そうした水力発電の特徴や歴史的意義、奥会津地域のさまざまな魅力を絵画やシアター、プロジェクトマップなどで紹介。幅7mの自然光で楽しむ大型ステンドグラス「奥会津讃歌」は必見です。



- 開館時間/10:00~16:30 ※入館は16:00まで
- 休館日/毎週月曜日(9/19、10/10)は開館、9/20が休館)
- 観覧料/無料
- 駐車場/普通車46台・大型6台・身障者用2台
- 住所/〒968-0006 大沼郡金山町大字中川字上居平933
- TEL/0241-42-7771



林明輝 只見湖の霧



林明輝 霧に浮かぶオヤマザクラ

# 林明輝

Meiki Lin

## <林明輝プロフィール>

1969年、横須賀市生まれ。18歳より独学で写真をはじめ。1995年より新潟県と長野県にまたがる名峰・雨飾山を取材した写真展「あまかざり」(1998年)、日本列島の水の姿に挑み、水の美しさや水の醸し出す独特の風景を追った「水のほとり」(2001年)、列島の森林を歩き続けた「森の瞬間」(2004年)、広大な山岳風景をとらえた「大きな自然・大雪山」(2008年)をそれぞれ富士フィルムフォトサロン各地で開催。2007年、東京都写真美術館で企画展「地球の旅人」を開催(松本市美術館に巡回)。2008年、福島市写真美術館で企画展「新たなる高みへ」を開催。2011年、デジタルカメラを駆使して列島各地の自然風景を見つめ直した写真集『四季の宝物 Treasures of seasons』(日本写真企画)を出版。同名の写真展をキャンノン・ギャラリー各地で開催。日印グローバル・パートナーシップ・サミット2011に自然首都・只見の写真を提供。自然風景の醸し出す微妙な空気感、透明感を表現した作品の発表を続ける。

## 交流・観光拠点施設 喰丸小 (昭和村)

旧・喰丸小学校は、1937年(昭和12年)に建築され、1980年(昭和55年)に廃校となりました。1992年から2006年まで「喰丸文化再学習センター」として使用されたあと、2013年公開の映画「ハーメルン」の舞台ともなりました。幾度かの解体の危機をまぬがれ、改修工事を行い、2018年4月に「交流・観光拠点施設 喰丸小」として生まれ変わりました。



- 開館時間/9:00~17:00
- 休館日/無 ※臨時休館になる場合があります。
- 観覧料/無料
- 駐車場/普通車80台・大型2台
- 住所/〒968-0103 大沼郡昭和村大字喰丸字宮前1374
- TEL/0241-57-2124



芳賀日出男 延年の舞 岩手県平泉町毛越寺

# 芳賀日出男

Hideo Haga

## <芳賀日出男プロフィール>

1921年、中国大連市生まれ。慶應義塾大学文学部に民俗学者の折口信夫に出会い、影響を受ける。1950年に日本写真家協会の創立者の一人として入会する。現在まで日本・世界の祭り・民族・民俗芸能の写真取材を行い、撮影取材した地域は全国都道府県、国外では101カ国。1970年に開催された大阪万博ではお祭り広場のプロデューサーを務める等、その活動は多岐にわたる。主な出版物に『田の神』(1959年、平凡社)、「日本の祭」(1991年、保育社)、『日本の民俗』上・下(1997年、クレオ)等多数。1988年、オーストリア共和国ウィーン市より栄誉功労銀勲章。1989年に紫綬褒章。1995年に勲四等旭日小綬章。2009年、オーストリア共和国より科学・芸術功労十字章を授与される。

## ただみ・モノとくらしのミュージアム (只見町)

「ただみ・モノとくらしのミュージアム」は、国指定重要文化財「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」をメイン資料とする新たな展示収蔵施設と、全面リニューアルした会津只見考古館を一体化したミュージアムとして、2022年7月22日に開館。農耕・畑作、狩猟、漁撈用具など只見の人々が使用してきた民具をはじめとする資料の収蔵展示により、只見のくらしと文化がわかる施設を目指します。



- 開館時間/9:30~17:00 ※入館は16:30まで
- 休館日/毎週月曜日(9/19、10/10)は開館、9/20が休館)
- 観覧料/無料
- 駐車場/普通車20台
- 住所/〒968-0602 南会津郡只見町大字大倉字窪田30
- TEL/0241-86-2175



千葉禎介 《石炭を背負う女》



千葉禎介 《湯治場》 後生掛温泉

# 千葉禎介

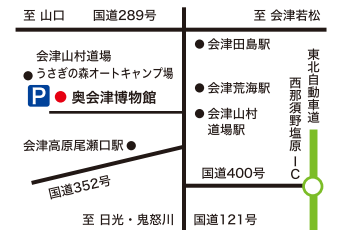
Teisuke Chiba

## <千葉禎介プロフィール>

1917年秋田県角館町に生まれる。呉服商として働きながら独学で写真を学ぶ。生涯を横手市で暮らす。戦後まもなくカメラ雑誌で入賞を重ねる等、アマチュア写真家でありながら秋田写真界の中心人物として活躍した。その作品の大部分は、身近な農民たちの生活や雪国の風俗を撮影したものであり、生まれ育った土地に対する愛情あふれる眼差しが感じられる。戦後、土門拳や木村伊兵衛によって提唱されたリアリズム写真の運動は、千葉をはじめとする秋田の写真家たちにも大きな衝撃を与えた。「秋田写真家集団」(1952年結成、54年に「集団秋田」と改称)のような写真家団体が結成され、ヒューマンスティックな写真群が生み出された。千葉の1950-60年代の農村の記録写真は、その中で最もみずみずしい輝きを放つものといえる。1965年、胃癌のため48歳の生涯を閉じた。1966年、地元の写真仲間の手で「千葉禎介遺作展」(富士フォトサロン、東京)が開催され、『千葉禎介遺作集』刊行。近年急速にその再評価が進みつつある。

## 奥会津博物館 (南会津町)

5,058点の国重要有形民俗文化財を含む約24,000点の民具を収蔵。失われつつある奥会津の伝統文化を保存・伝承することを目的とし、郷土の歴史・民俗資料などを収集、公開しています。人々の学習の場であり歴史・民俗学の研究機関でもあります。敷地内に民家(馬宿・染屋・旧猪股家住宅・旧山王茶屋)を移築し、木地小屋・炭焼小屋などを再現しています。



- 開館時間/9:00~17:00
- 休館日/毎週木曜日(8/11)は開館、8/12は休館)
- 観覧料/無料 ※常設展は別観覧料が必要です。
- 駐車場/普通車20台
- 住所/〒967-0014 南会津郡南会津町大字糸沢字西沢山3692-20
- TEL/0241-66-3077